

宮城県日中友好協会

TEL・FAX 022-274-3811

E-メール jcfa-miyagi@rose.plala.or.jp

ホームページ <http://www16.plala.or.jp/miyagikenn/>



11月、(霜月、しもつき)。いよいよ残り一ヶ月で新しい年を迎えるが、我が事務所でも新春号の作成準備に入った。しかし、今年一年間の記録を紐解いてみるとコロナの影響でほとんどの行事が中止に追い込まれ、紙面を埋めることができるか心配している。来年こそは紙面を埋めるのに頭を痛めることが無いよう祈っている。

1. 11月の行事：特にありません。

※ 各地区協会・委員会の行事報告等あれば掲載いたしますので、ぜひFax, メール等でお知らせください

2. 魯迅生誕140周年 結んだ中日の絆 未来へ (新潟総領事館総領事 孫 大剛)



新潟総領事館の孫大剛総領事は河北新報(9月20日付け)に「魯迅生誕140周年結んだ中日の絆未来へ」と題した文章を寄稿されました。全文は以下の通りです、ご覧ください。

「わが師と仰ぐ人々の中でも、先生は最も私を感激させ、鼓舞激励してくださった一人である」

これは魯迅(1881～1936年)の恩師・藤野巖九郎氏への評価だ。

1904～06年、魯迅は仙台医学専門学校(現・東北大)に留学した。解剖学教授の藤野氏と師弟愛を育み、この時期に中国の国民精神の改造という遠大な志を固めた。仙台を離れて20年後、この体験を「藤野先生」の一文に記し、杜の都・仙台も中国で広く知られるようになった。

今年は魯迅生誕140周年、没後85年だが、百年の歳月を経ても、彼が残した豊かな遺産の影響は大きい。当時、中日友好のためにまかれた友情の種は既に枝葉を茂らせている。

魯迅が生きた時代、中日関係は不幸な歴史を歩んでいた。しかし、彼は日本の軍国主義者と一般民衆を区別していた。「友邦おどろく論」などの文章で、日本軍国主義を厳しく糾弾する一方、中国の運命に善意を抱く日本人と知り合い、「日本と中国の大衆はもとより兄弟だ」と述べていた。ある人が『魯迅全集』で集計したところ、日本の友人は記載分だけで160人余に上り、その中には藤野氏や日中友好協会初代理事長を務めた内山完造氏らがいた。

魯迅は夏目漱石氏、森鷗外氏ら文豪の作品を中国に紹介し、『現代日本小説集』にはその訳文11編が収められている。日本では1920～30年代、魯迅作品の翻訳ブームが起きた。37年、改造社が世界初の『大魯迅全集』を刊行。44年、太宰治氏が魯迅を主人公に『惜別』を執筆。また、魯迅の『故郷』は中日の国語教材に採用され、数世代にわたり両国民の共通的記憶となっている。魯迅は文学を介して両国民の文化交流の窓を開いた。今なお、日本各地で多くの魯迅研究団体が活躍しており、この窓は依然大きく開かれている。

中国と日本は2000年もの友好往来の歴史があり、深い淵源が形成された。仙台は魯迅を通して中国と深い縁を結んだ。江沢民氏は1998年、日本を訪問した。中国の国家元首初の公式訪日で、東京以外に仙台も訪れ「東瀛禹域ノ誼相伝フ」(中日友好を子々孫々伝える意)の詩を残した。

百年の光陰も矢の如し。仙台は中国人観光客の人気訪問先の一つで、魯迅の足跡をたどる旅程が重点になる。仙台は大連、北京との空路が開かれている。長春と友好都市を結び、この40年近い地方交流・協力の成果は大きい。歴史の望遠鏡を通して見ると、まさに両国各界の一人一人の「魯迅」、各地の一つ一つの「仙台」が民間交流と地方友好によって、中日関係の強い絆を結んだことが分かる。

現在、新型コロナウイルスなどの影響を受け、中日間の交流協力、特に人的往来は一定の制約がある。だが、魯迅が『随想録』で述べたように、道は「いばらばかりのところ」に開拓してできたものだ。困難はしばしば突破を促し、危機の中で転機を生む。中日双方が来年の国交正常化50周年を機に友好の伝統を受け継ぎ、百年の変局を踏まえて交流と協力を深め、両国関係のよりよい未来を共に開くよう期待する。

※ 河北新報「持論時論」9月20日版に投稿されたものを転載しています。

3. 魯迅先生逝世85周年碑前祭

10月19日(火) 10:30～仙台市博物館中庭にある「魯迅之碑」前で碑前祭が行われました。

式典には仙台魯迅先生顕彰会会長郡和子仙台市長代理高橋新悦仙台市副市長、宮城県日中友好協会佐々木謙会長、東北地区中国学友会崔燦副会長、宮城県経済商工観光部国際政策課江間仁志課長等宮城県・仙台市・日中友好協会関係者・留学生・一般市民等36名が参加し、魯迅先生の遺徳を偲び、当協会の蕪武多四郎相談役の碑についての説明があった後、碑に献花をいたしました。

本年は魯迅先生生誕140周年、仙台留学117年、逝世85周年、碑除幕60周年、紹興市より寄贈された魯迅先生胸像除幕20周年の年になりますが、コロナの影響で恒例の留学生との昼食交流会も中止となり、式典も短時間のうちに終わりました。



※「魯迅之碑」前で参加者一同記念撮影



※魯迅先生胸像前で参加者一同記念撮影

4. これからの県日中の予定

1) 中国語オンライン講座について (青年委員会 吉澤)

中国語の映画『我的少女時代』の中から重要語句を抜き出して講師が日本語で解説 (中国語学習者向け)

日 時: 11月14日、21日、28日(日) 全回 10時～11時

講 師: 羅漢氏 (東北大学工学部助教)

受 講 料: 協会所属3000円 一般3300円

定 員: 先着10名

申し込み締切: 11月6日、入金締切11月8日 (詳細は全国紙の11月号に掲載されます)

申し込み確認メールとともに送金先をお知らせ致します。

入金確認後、ZOOM IDとYouTube URLを送信します。